

# 会議の 外形的デザイン による 市民参加の促進

—民間施設開催の効果の検証—

同志社大学政策学部野田ゼミA班

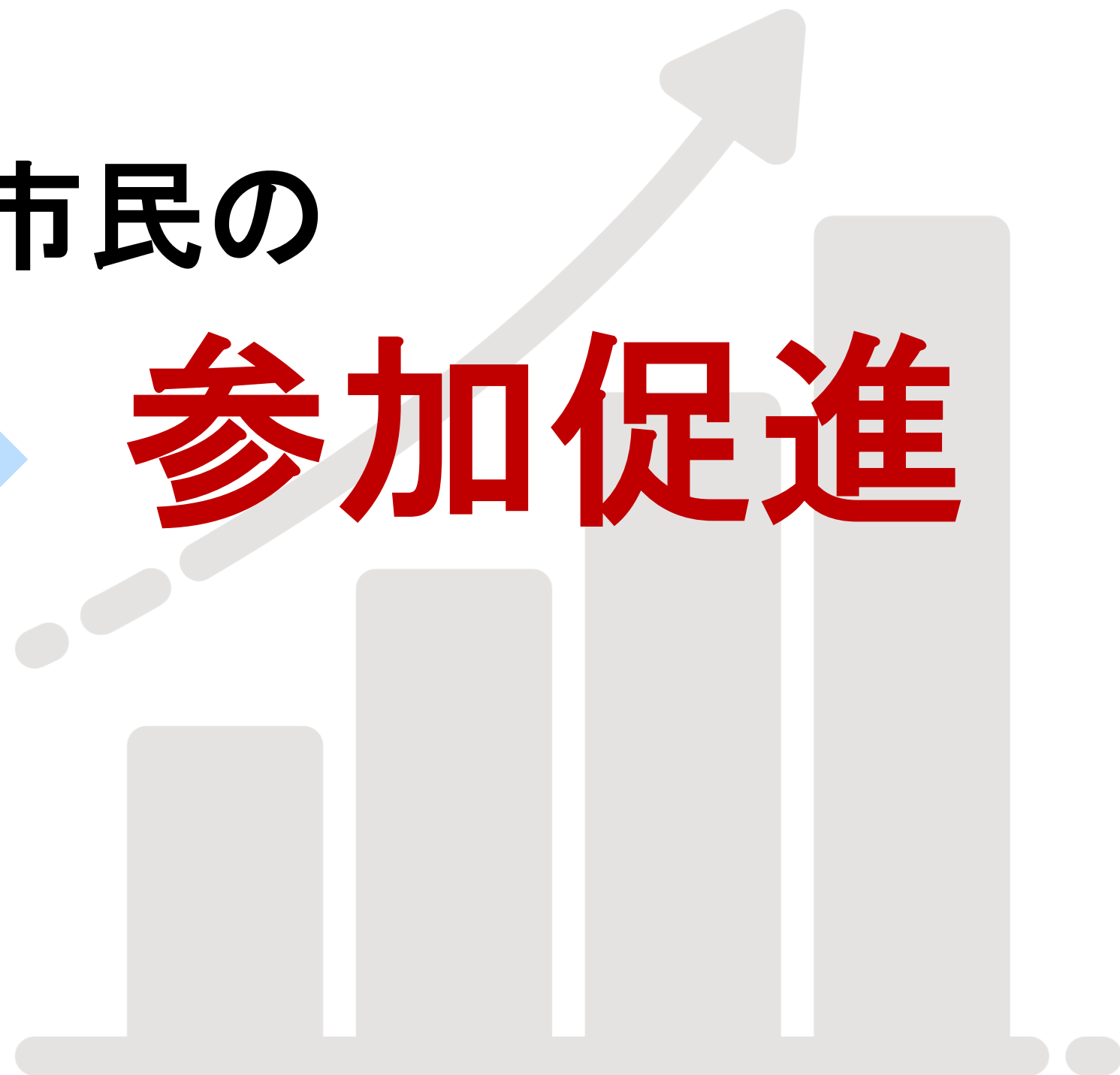


民間施設開催



市民の

参加促進



# 2003年

# 京都市市民参加推進条例



京都市  
CITY OF KYOTO

資料 ①

## 京都市市民参加推進条例

1200年を超える歴史の中で、京都は、世界に誇るべき「都市の自治」をはぐくみ、自治の伝統に培われた市民の多様な活動及び市政への参加により、自立性の高い活力あふれるまちとして発展してきた。

21世紀においても、京都が有する多様かつ豊かな蓄積を輝きに変え、個性豊かな魅力あふれるまちとして、京都が発展し続けるためには、事業者、市民活動団体等を含むすべての市民が、その持てる力を存分に発揮し、地域社会の一員として、自覚と責任を持って、まちづくりを進めるとともに、市政に積極的に参加し、協働の成果を挙げることが必要である。

本市は、代表民主制を基本とする地方自治制度の下、市民の市政への参加と市民による自主的なまちづくりについて、これらを市政運営の基本原則とし、基本理念を定め、並びに本市及び市民の責務を明らかにするとともに、多様な参加の機会を確保することにより、本市と市民とのパートナーシップに基づく市政の推進を図り、もって豊かで活力ある地域社会を実現することを決意し、この条例を制定する。

(目的)

第1条 この条例は、本市及び市民が共に市民参加（市民が市政に参加し、及びまちづくりの活動を行うことをいう。以下同じ。）を推進するための基本的事項を定めることにより、市民の知恵と力を生かした市政及び個性豊かなまちづくりの推進に資することを目的とする。

(基本理念)

第2条 市民参加は、本市と市民との協働（自らの果たすべき役割を自覚して対等の立場で協力し合い、及び補完し合うことをいう。以下同じ。）の精神に基づき、市民による市政への参加とまちづくりの活動とが相まって、推進されなければならない。

2 市民参加は、市民の豊かな社会経験及び創造的な活動が尊重されるとともに、市民の福祉の増進及び市政運営の効率性が確保されることを基本として推進されなければならない。

3 市長その他の本市の行政機関は、市民参加の推進に当たっては、市会の権限及び役割を尊重しなければならない。

(本市等の責務)

第3条 本市は、京都市情報公開条例の趣旨にのっとり、情報の提供及び公開を推進することにより、政策の形成、実施及び評価の一連の過程における透明性を向上させるとともに、政策の目的、内容、効果等を市民に分かりやすく説明する責務を果たし、もって市民がこれら一連の過程において市政に参加することができるよう、その機会の確保に



# ☑ 現状

市民協働ファシリテーター制度の導入や市民活動総合センターの設立  
現在の松井市長は市民対話会議を積極的に推進するなど

**京都市** は他の都市と比べても市政への  
市民参加に対して**積極的**



審議会・市民公募委員・ワークショップ



市民の意見を直接聞ける会議

---

参加可能会議





# 京都市によるアンケート





# 市民公募委員の参加率

回答者の

0.7%



市民が参加可能会議に

参加する要因

とは？



# 先行研究で議論された会議の参加要因



## 政治的有効性感覚

Almond and Verba (1963). 期待効用モデル



## 投票者の属性

社会学モデル



## 政府の業績

フィオリーナの業績投票モデル



## 組織参加によるソーシャルキャピタルの増幅

蒲島郁夫(1998)



## 人口規模

Verba and Nie (1972) のコミュニティ衰退モデル



## 争点態度

ミシガンモデル

# 国政参加要因

多くは投票参加に関するもの



多数の研究で扱われてきた



まちづくり・参加可能会議への

市民参加を扱う研究は少ない





# 市政参加要因



佐藤徹(2018)石上泰州(2005)

先行研究の多くは

**市民の心理や内面**に焦点を置く



従来の研究では...

?

会議をどこで開催するのか

外形的な要素

はほとんど注目されてこなかった



# 外形的な要素をデザイン

---

市民参加が向上



# 外形的な要素

市民参加促進の

# トリガー



参加可能会議の

外形的デザインに着眼した

民間施設開催の効果



# ヒアリング調査



**NEXT**





どんな要素が敷居を高くしている？



京田辺市**上村市長**によると...

行政の会議という形式や名称

➡参加のしづらさや発言のしづらさを生んでいる

カフェのような日常的な場

➡自由で活発な多くの意見が出る

民間施設開催



効果的な可能性

# 外形的デザインに関するもの





# ワールドカフェ

少人数に分かれて話し合うことで

リラックス

した雰囲気で開催を行う手法



# 「ワールドカフェ

公共施設

で開催されることがほとんど



# 京都市の民間施設での開催を含む 市民会議の現状を調査



職員の方でさえも

参加可能会議の  
全体像

民間施設での  
開催割合

把握していない



参加可能会議の開催場所など  
**全貌** を明らかにする必要がある

京都市総合企画局大学政策担当に依頼  
すべての局や区を対象に調査

**見える化**

# 見える化とは？

参加可能会議数と民間施設の  
開催割合に関する調査

“前例”がない



# 京都市の参加可能会議の見える化調査

参加可能会議

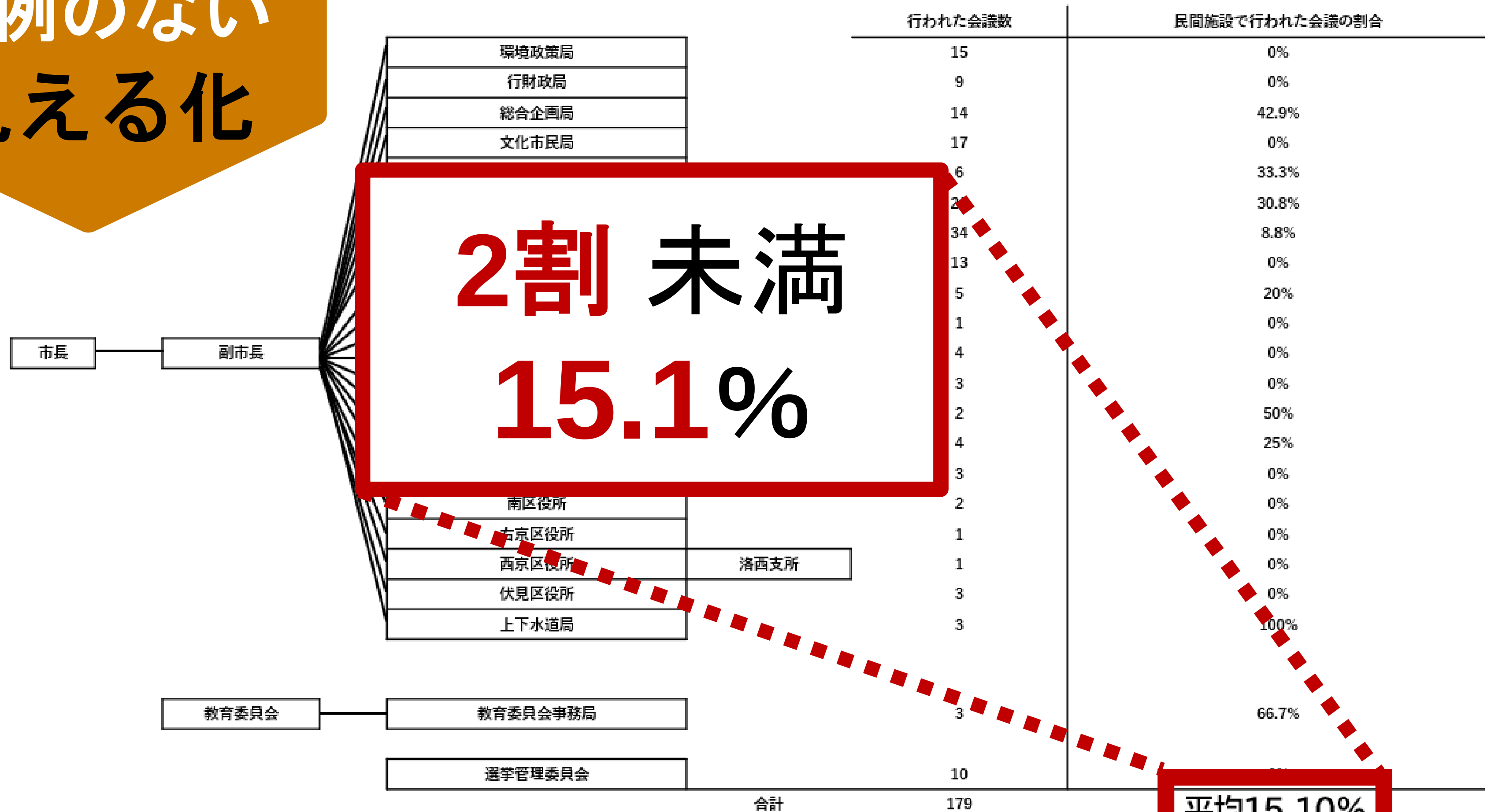
年間計 179 回

民間施設開催の  
参加可能会議

年間計 27 回



# 前例のない 見える化





# 事例調査

近江八幡市「議会カフェ」  
@イオン近江八幡ショッピングセンター

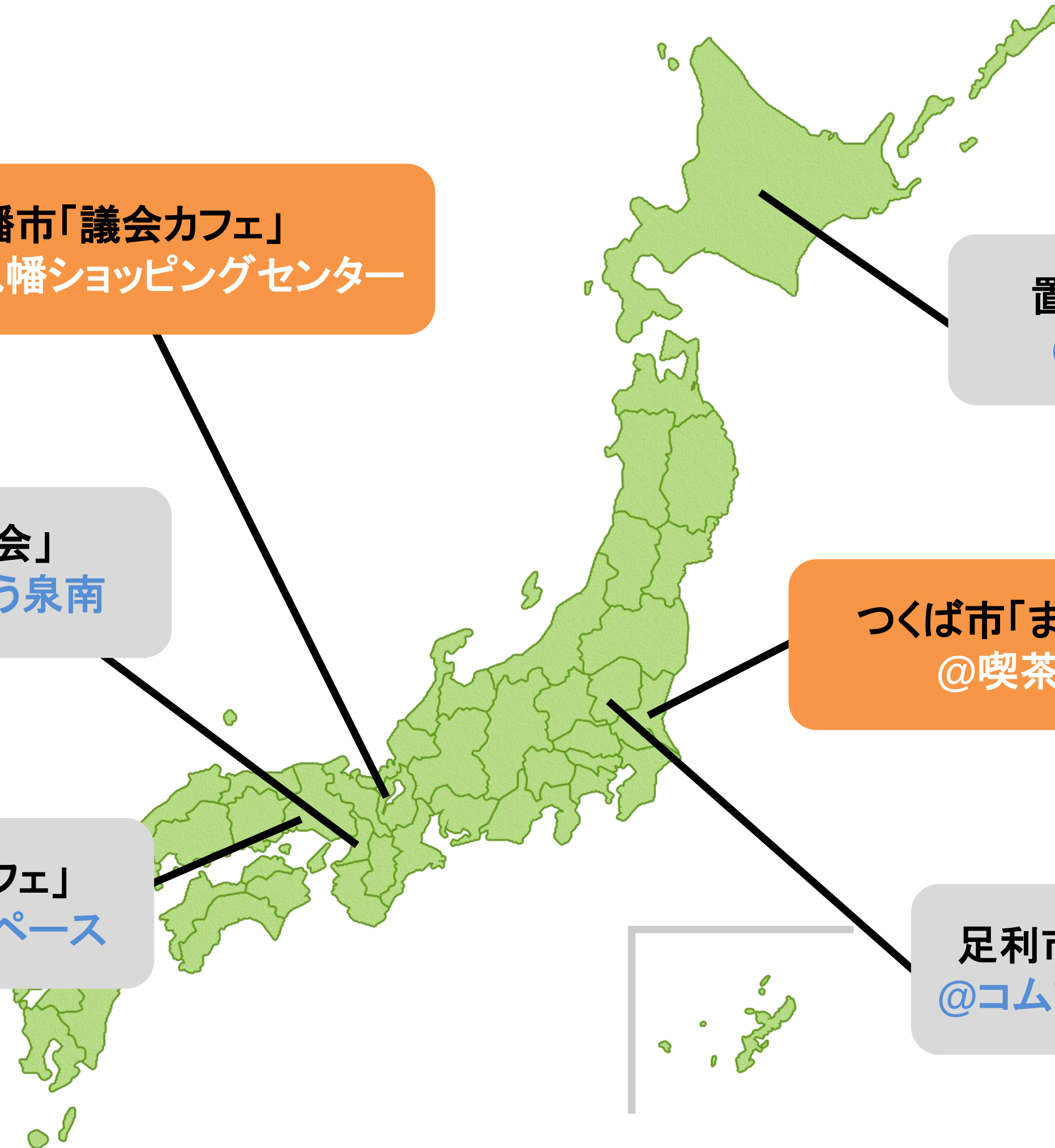
置戸町「議会カフェ」  
@キッチン木の实

泉南市「議会報告会」  
@イオンモールりんくう泉南

つくば市「まちづくりカフェ」  
@喫茶くれしーた

明石市「まるちゃんカフェ」  
@クイズあかしフリースペース

足利市「しぎかい広場2024」  
@コムファショッピングセンター





# 民間施設開催の具体的な効果

明らかにになっていない





01



街頭インタビュー

02



SCAT分析

03



街頭アンケート

04



回帰分析

05



模擬会議

01



# 街頭インタビュー

02



SCAT分析

03



街頭アンケート

04



回帰分析

05



模擬会議

01



街頭インタビュー

02



SCAT分析

03



街頭アンケート

04



回帰分析

05



模擬会議

01



街頭インタビュー

02



SCAT分析

03



街頭アンケート

04



回帰分析

05



模擬会議

01



街頭インタビュー

02



SCAT分析

03



街頭アンケート

04



回帰分析

05



模擬会議

民間施設開催の  
効果を分析



01



街頭インタビュー

02



SCAT分析

03



街頭アンケート

04



回帰分析

05



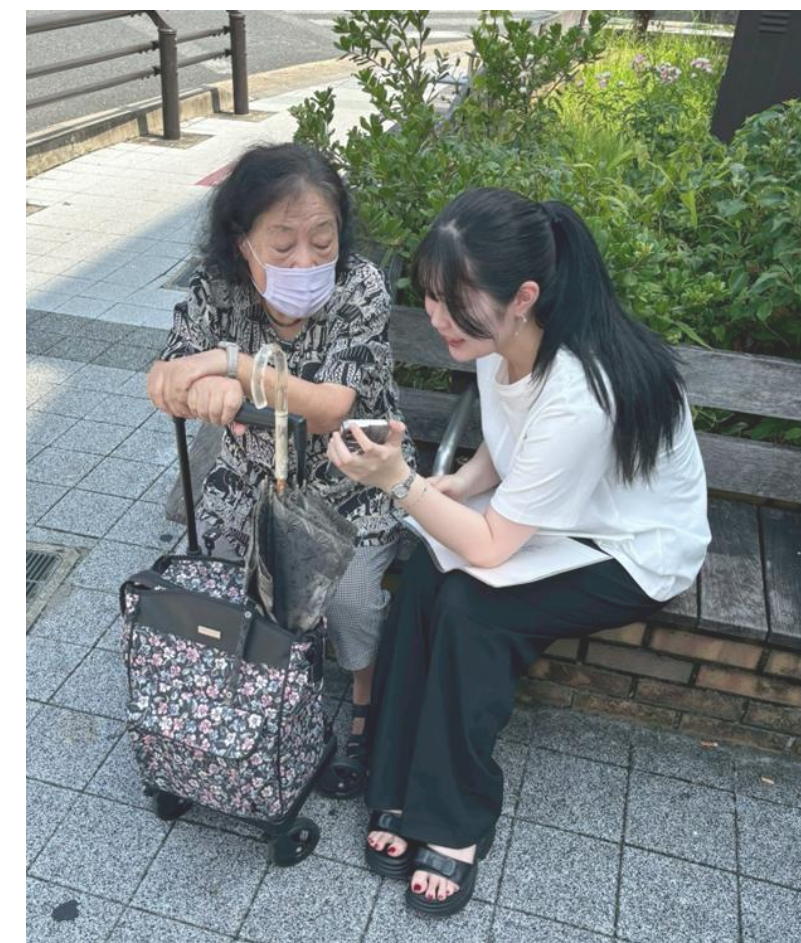
模擬会議

具体的な要素  
民間施設の効果を検証

01

First Step

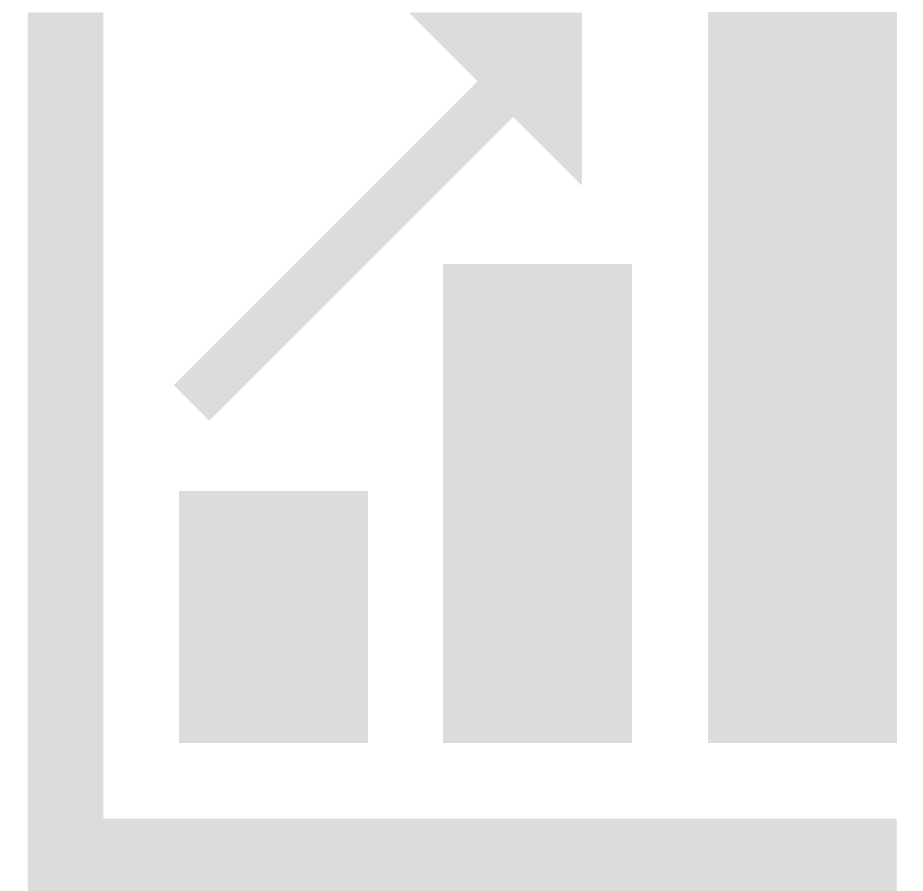
# 街頭インタビュー



02

Second Step

# SCAT分析



# SCAT分析

調査対象者の発言から **キーワード** を抽出し **飽和状態**

これ以上新たな要素が  
出てこなくなる状態

》》》 参加要因を **100%網羅**

第二段階

街頭アンケートに活用

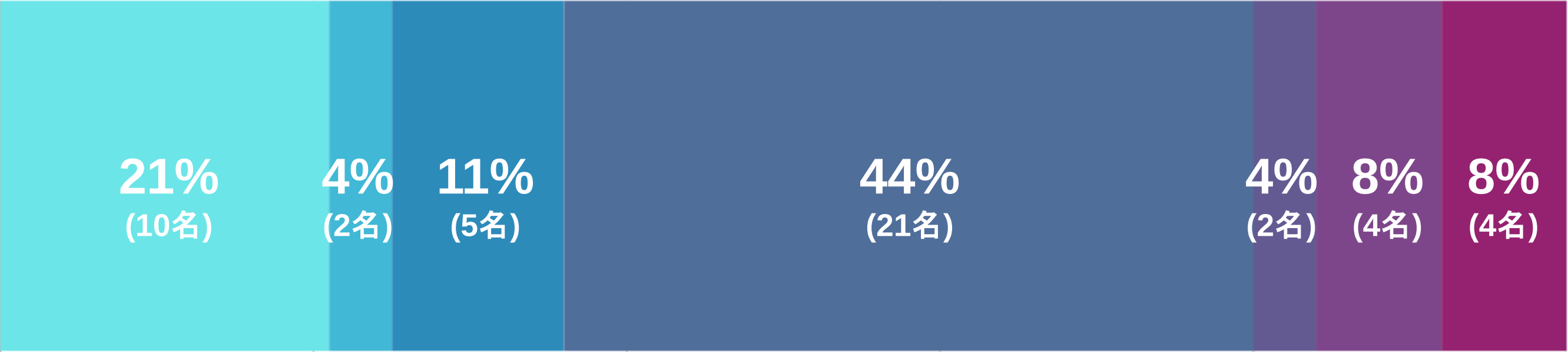




# 年齢構成

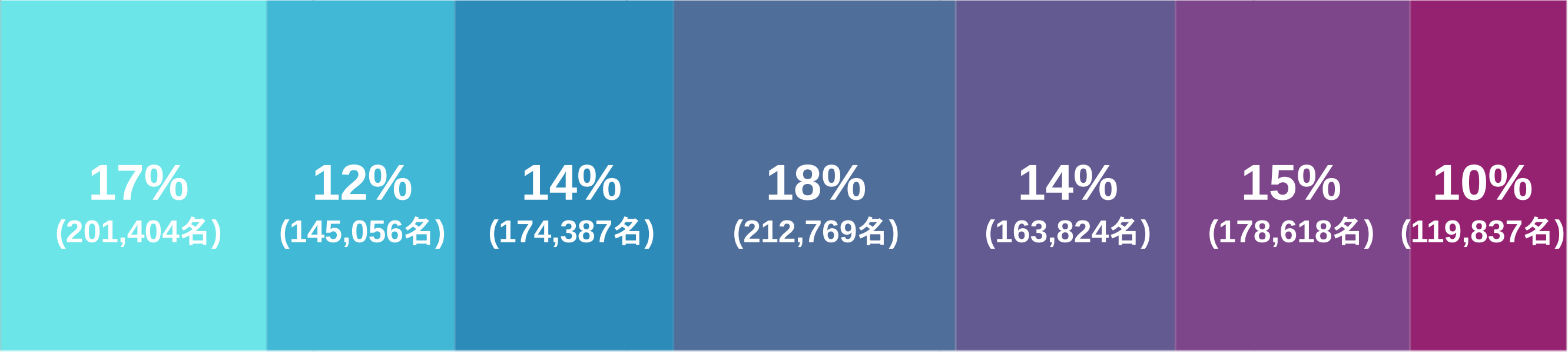
● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代 ● 70代 ● 80代

調査対象者



**n=48**  
出所：野田ゼミ作成

京都市

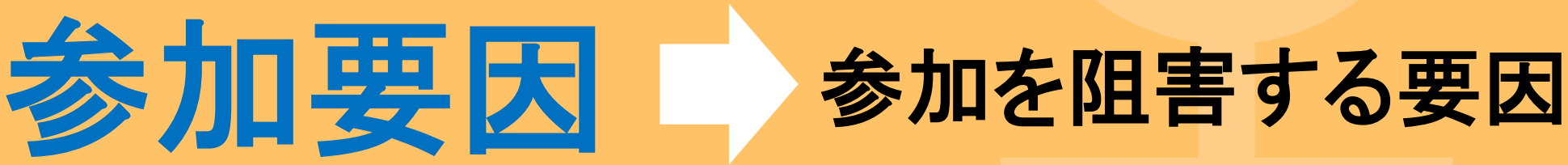


**n=1,195,895**

0% 20% 40% 60% 80% 100%

# SCAT分析

Q 参加要因としてどのようなものがあるのか？



	A	B	C	D	E	F
1 発話者	テキスト		〈1〉テキスト中の注目すべき語句	〈2〉〈1〉を言い換えるためのデータ外の語句	〈3〉左を説明するようなテキスト外の概念	〈4〉テーマ・構成概念
2 回答者	時間は作ろうと思えば作れるけど、わざわざ行くほどでもない。	わざわざ行くほどでもない	わざわざ行くほどでもない	わずかな価値、優先順位、感覚	参加の価値判断、優先順位の低さ	行動選択の優先度が低い
3	でも友達と参加ならかなり行きやすい	友達と参加	友達と参加	参加要因、知人	知人による心理的ハードルの低下	知人と一緒に参加
4	ただ意見を言うだけならいいけど、責任が重すぎると行かない	責任が重すぎると行かない	責任が重すぎると行かない	責任、発言、抵抗感	発言の責任に対する嫌悪感	責任回避
5	テーマにすごく興味があれば行くかも	興味があれば行く	興味があれば行く	参加要因、興味	興味による参加促進	テーマが自分と関係あるか
6 質問者	応募に、作文とかが必要ですがどうですか？	作文とかが必要	作文とかが必要	選考の準備	応募に際して要求される手間の確認	準備の負担
7 回答者	あーそれはそうだね、面倒だけど同じ熱量の人と話し合いたいから、全然いいと思う	同じ熱量の人と話し合いたい	同じ熱量の人と話し合いたい	手間をかけてもいい条件	回答者がコストをかける条件	会議へ馴染めるか
8 質問者	どんなテーマならやりますか？	どんなテーマ	どんなテーマ	関心のある議題	回答者の関心のあるテーマ	市民関心の把握
9 回答者	自分がやってたこと、介護関係の仕事をしてたことがあるから、そっち系なら	自分がやってたこと	自分がやってたこと	自分との関係性	自分との関係性が高いことが参加促進につながる	テーマが自分と関係あるか

←抽象化の度合い→	
低	高
情報不足 時間的制約 動機付けの欠如 心理的抵抗感 情報アクセス不足 地理的アクセスの悪さ 会議の不明瞭さ 手続きの不透明性 否定的な先入観 形式や参加者構成による萎縮感 読みにくい書類 テーマ設定と市民関心の乖離 デジタル弱者 時間意識の欠如 参加コスト イメージが悪い 市民参加の形式化による信頼度の低下 変化の欠如 責任回避 場違いに感じる 効果への不信感 市民参加が形だけ 行動選択の優先度が低い 情報の専門性・難解さ 市民への周知不足 市への信頼がない 会議時間の長さ 若者に任せたい、発言権や責任がない 当事者意識の欠如 公共性への無関心 時間的負担 専門的な内容 準備の負担、知識が必須だと思っている 利害関係の回避志向 知識不足 コミュニティへの帰属意識の低さ 雰囲気の開鎖性 明確性の欠如 報酬がない 会議書類が大量にある キャリアに繋がらない 家から会議開催場所が遠い 市役所が怖い 参加経験のなさ 長時間の会議がしんどい 性別に偏りがありそうで抵抗感 社会的格差を感じるのではないかな 身近なレストランなどでの開催がない 年配の人が多そう 政策への不信感 会議室という形式に抵抗感 参加しても何も変わらないと思う 日常的な地域との関わりの希薄さ 心細さを伴う不安を感じる 無関心 知人と一緒に参加しづらい 交通費が出ない 役所の異質感	開催情報の入手の容易さ 参加時間の有無 会議時間の長さ 会議内容の難しさ 発言機会の有無 大量の書類 会議名の堅苦しさ 交通費の有無 参加特典の有無 キャリアにつながるか 責任が伴うか アクセスのしやすさ 民間施設での開催 知人と一緒に参加 テーマが自分と関係あるか 政治的有效感 参加の経験 業績 信頼 性別 年代 給与所得 京都市民か イデオロギー

限りなく回答に  
近い内容

飽和状態

←抽象化の度合い→	
低	高
情報不足	開催情報の入手の容易さ
時間的制約	参加時間の有無
動機付けの欠如	会議時間の長さ
心理的抵抗感	会議内容の難しさ
情報アクセス不足	発言機会の有無
地理的アクセスの悪さ	大量の書類
会議の不明瞭さ	会議名の堅苦しさ
手続きの不透明性	交通費の有無
否定的な先入観	参加特典の有無
形式や参加者構成による萎縮感	キャリアにつながるか
読みにくい書類	責任が伴うか
テーマ設定と市民関心の乖離	アクセスのしやすさ
デジタル弱者	民間施設での開催
時間意識の欠如	知人と一緒に参加
参加コスト	テーマが自分と関係あるか
イメージが悪い	政治的有效感
市民参加の形式化による信頼度の低下	参加の経験
変化の欠如	業績
責任回避	信頼
場違いに感じる	性別
効果への不信感	年代
市民参加が形だけ	給与所得
行動選択の優先度が低い	京都市民か
情報の専門性・難解さ	イデオロギー
市民への周知不足	
市への信頼がない	
会議時間の長さ	
若者に任せたい、発言権や責任がない	
当事者意識の欠如	
公共性への無関心	
時間的負担	
専門的な内容	
準備の負担、知識が必須だと思っている	
利害関係の回避志向	
知識不足	
コミュニティへの帰属意識の低さ	
雰囲気の開鎖性	
明確性の欠如	
報酬がない	
会議書類が大量にある	
キャリアに繋がらない	
家から会議開催場所が遠い	
市役所が怖い	
参加経験のなさ	
長時間の会議がしんどい	
性別に偏りがありそうで抵抗感	
社会的格差を感じるのではないかと	
身近なレストランなどでの開催がない	
年配の人が多そう	
政策への不信感	
会議室という形式に抵抗感	
参加しても何も変わらないと思う	
日常的な地域との関わりの希薄さ	
心細さを伴う不安を感じる	
無関心	
知人と一緒に参加しづらい	
交通費が出ない	
役所の異質感	

抽象度が  
高くなった状態

# SCAT分析

「有効感」に加え、他にも抽出された  
様々な要因を大きく分ける



相関関係が強いもの

主成分分析を用いて合成

←抽象化の度合い→	
低	高
情報不足	開催情報の入手の容易さ
時間的制約	参加時間の有無
動機付けの欠如	会議時間の長さ
心理的抵抗感	会議内容の難しさ
情報アクセス不足	発言機会の有無
地理的アクセスの悪さ	大量の書類
会議の不明瞭さ	会議名の堅苦しさ
手続きの不透明性	交通費の有無
否定的な先入観	参加特典の有無
形式や参加者構成による萎縮感	キャリアにつながるか
読みにくい書類	責任が伴うか
テーマ設定と市民関心の乖離	アクセスのしやすさ
デジタル弱者	民間施設での開催
時間意識の欠如	知人と一緒に参加
参加コスト	テーマが自分と関係あるか
イメージが悪い	政治的有效感
市民参加の形式化による信頼度の低下	参加の経験
変化の欠如	業績
責任回避	信頼
場違いに感じる	性別
効果への不信任	年代
市民参加が形だけ	給与所得
行動選択の優先度が低い	京都市民か
情報の専門性・難解さ	イデオロギー
市民への周知不足	
市への信頼がない	
会議時間の長さ	
若者に任せたい、発言権や責任がない	
当事者意識の欠如	
公共性への無関心	
時間的負担	
専門的な内容	
準備の負担、知識が必須だと思っている	
利害関係の回避志向	
知識不足	
コミュニティへの帰属意識の低さ	
雰囲気の開鎖性	
明確性の欠如	
報酬がない	
会議書類が大量にある	
キャリアに繋がらない	
家から会議開催場所が遠い	
市役所が怖い	
参加経験のなさ	
長時間の会議がしんどい	
性別に偏りがありそうで抵抗感	
社会的格差を感じるのではないか	
身近なレストランなどでの開催がない	
年配の人が多そう	
政策への不信任	
会議室という形式に抵抗感	
参加しても何も変わらないと思う	
日常的な地域との関わりの希薄さ	
心細さを伴う不安を感じる	
無関心	
知人と一緒に参加しづらい	
交通費が出ない	
役所の異質感	

出所:野田ゼミ作成

←抽象化の度合い→	
低	高
<p>           情報不足            時間的制約            動機付けの欠如            心理的抵抗感            情報アクセス不足            地理的アクセスの悪さ            会議の不明瞭さ            手続きの不透明性            否定的な先入観            形式や参加者構成による萎縮感            読みにくい書類            テーマ設定と市民関心の乖離            デジタル弱者            時間意識の欠如            参加コスト            イメージが悪い            市民参加の形式化による信頼度の低下            変化の欠如            責任回避            場違いに感じる            効果への不信感            市民参加が形だけ            行動選択の優先度が低い            情報の専門性・難解さ            市民への周知不足            市への信頼がない            会議時間の長さ            若者に任せたい、発言権や責任がない            当事者意識の欠如            公共性への無関心            時間的負担            専門的な内容            準備の負担、知識が必須だと思っている            利害関係の回避志向            知識不足            コミュニティへの帰属意識の低さ            雰囲気の開鎖性            明確性の欠如            報酬がない            会議書類が大量にある            キャリアに繋がらない            家から会議開催場所が遠い            市役所が怖い            参加経験のなさ            長時間の会議がしんどい            性別に偏りがありそうで抵抗感            社会的格差を感じるのではないかと            身近なレストランなどでの開催がない            年配の人が多そう            政策への不信感            会議室という形式に抵抗感            参加しても何も変わらないと思う            日常的な地域との関わりの希薄さ            心細さを伴う不安を感じる            無関心            知人と一緒に参加しづらい            交通費が出ない            役所の異質感         </p>	<p>           開催情報の入手の容易さ            参加時間の有無            会議時間の長さ            会議内容の難しさ            発言機会の有無            大量の書類            会議名の堅苦しさ            交通費の有無            参加特典の有無            キャリアにつながるか            責任が伴うか            アクセスのしやすさ            民間施設での開催            知人と一緒に参加            テーマが自分と関係あるか            政治的有效感            参加の経験            業績            信頼            性別            年代            給与所得            京都市民か            イデオロギー         </p>

出所:野田ゼミ作成

# 心理的入口動機

開催情報の入手の容易さ  
 参加時間の有無  
 会議時間の長さ

# 心理的容易さ

会議内容の難しさ  
 発言機会の有無  
 大量の書類  
 会議名の堅苦しさ

←抽象化の度合い→	
低	高
情報不足	開催情報の入手の容易さ
時間的制約	参加時間の有無
動機付けの欠如	会議時間の長さ
心理的抵抗感	会議内容の難しさ
情報アクセス不足	発言機会の有無
地理的アクセスの悪さ	大量の書類
会議の不明瞭さ	会議名の堅苦しさ
手続きの不透明性	交通費の有無
否定的な先入観	参加特典の有無
形式や参加者構成による萎縮感	キャリアにつながるか
読みにくい書類	責任が伴うか
テーマ設定と市民関心の乖離	アクセスのしやすさ
デジタル弱者	民間施設での開催
時間意識の欠如	知人と一緒に参加
参加コスト	テーマが自分と関係あるか
イメージが悪い	政治的有效感
市民参加の形式化による信頼度の低下	参加の経験
変化の欠如	業績
責任回避	信頼
場違いに感じる	性別
効果への不信感	年代
市民参加が形だけ	給与所得
行動選択の優先度が低い	京都市民か
情報の専門性・難解さ	イデオロギー
市民への周知不足	
市への信頼がない	
会議時間の長さ	
若者に任せたい、発言権や責任がない	
当事者意識の欠如	
公共性への無関心	
時間的負担	
専門的な内容	
準備の負担、知識が必須だと思っている	
利害関係の回避志向	
知識不足	
コミュニティへの帰属意識の低さ	
雰囲気の開鎖性	
明確性の欠如	
報酬がない	
会議書類が大量にある	
キャリアに繋がらない	
家から会議開催場所が遠い	
市役所が怖い	
参加経験のなさ	
長時間の会議がしんどい	
性別に偏りがありそうで抵抗感	
社会的格差を感じるのではないか	
身近なレストランなどでの開催がない	
年配の人が多そう	
政策への不信感	
会議室という形式に抵抗感	
参加しても何も変わらないと思う	
日常的な地域との関わりの希薄さ	
心細さを伴う不安を感じる	
無関心	
知人と一緒に参加しづらい	
交通費が出ない	
役所の異質感	

出所:野田ゼミ作成

# 損得勘定

交通費の有無  
参加特典の有無  
キャリアにつながるか  
責任が伴うか

# 物理的アクセス

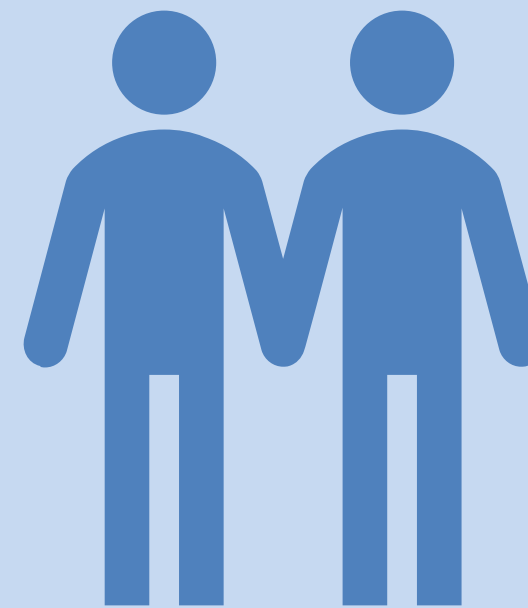
アクセスのしやすさ



民間施設での開催



知人とともに参加



テーマが自分に関係あること



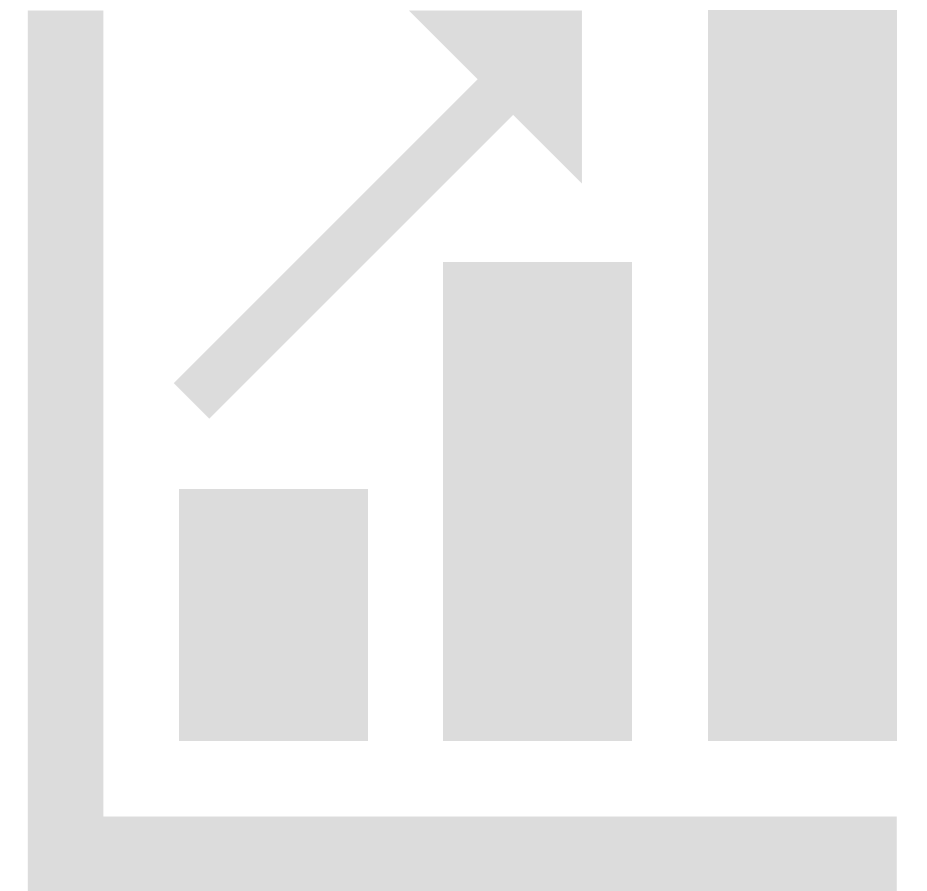
先行研究で論じられてきた属性



02

Second Step

# SCAT分析



Third Step

03

# 街頭アンケート



# アンケート項目

北大路駅周辺

各要因が参加意向に対し

どれほど影響を与えるのか？

7段階で回答を求めた





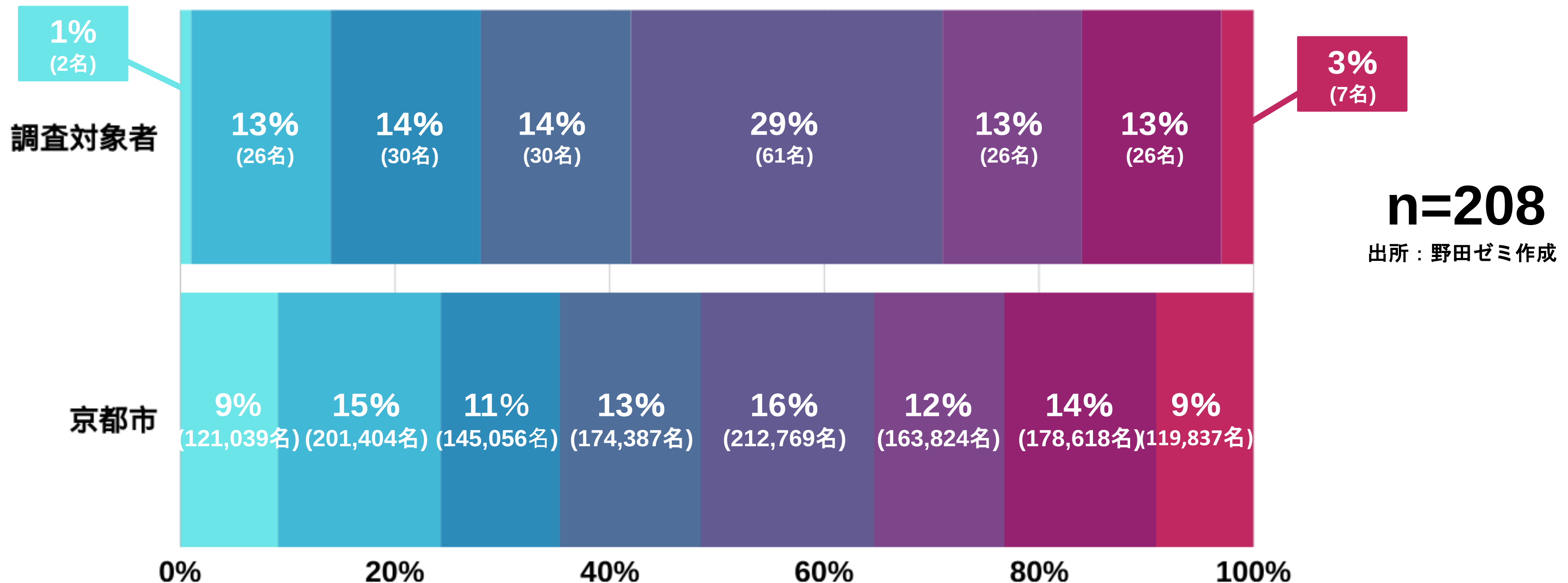
# 街頭アンケート



烏丸御池・北大路

実施期間：2025年8月11日～8月28日

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代



n=1,195,895

出所：京都市統計ポータルを基に野田ゼミ作成

Third Step

03

# 街頭アンケート





04

Fourth Step

# 回帰分析 (STATA18)



# 回帰分析の変数

## 従属変数

参加意向

# 回帰分析の変数

## 独立変数

民間施設開催 ・ 業績 ・ 信頼 ・ 有効感 ・ テーマ関係有 ・  
女性 ・ 年代 ・ 給与所得 ・ 京都市民 ・ イデオロギー ・  
参加経験 ・ 知人と一緒 ・ アクセスの良さ ・  
PCA心理的入口 ・ PCA心理的容易さ ・ PCA損得勘定

# 参加意向

## 民間施設での開催

参加意向において

ポジティブ

		交差項無のモデル	交差項有のモデル
外形的要因	民間施設開催	0.289 *** (0.106)	0.305 *** (0.084)
行政に対する認識	業績	0.043 (0.102)	0.038 (0.084)
	信頼	0.043 (0.097)	0.008 (0.081)
	有効感	0.014 (0.091)	-0.015 (0.083)
	テーマ関係有	0.174 ** (0.074)	0.219 ** (0.09)
属性	女性	-0.341 * (0.2)	-0.124 * (0.072)
	年代	-0.027 (0.067)	-0.040 (0.081)
		交差項無のモデル	交差項有のモデル
民間施設開催		0.289 *** (0.106)	0.305 *** (0.084)
参加の環境	参加経験	1.274 *** (0.339)	0.248 *** (0.066)
	知人と一緒	0.206 *** (0.077)	0.263 *** (0.094)
	アクセスの良さ	0.005 (0.087)	0.016 (0.1)
	心理的入口動機	0.133 (0.102)	0.183 * (0.107)
	心理的容易さ	-0.232 ** (0.096)	-0.268 ** (0.115)
	獲得勘定	-0.076 (0.099)	-0.109 (0.114)
	民間施設開催×有効感		0.236 ** (0.091)
定数		1.380 (0.862)	0.098 (0.07)
決定係数		0.274	0.306

(注)標本数172、OLS、ロバスト標準誤差。交差項有のモデルは変数を標準化。  
心理的入口動機、心理的容易さ、獲得勘定は主成分分析の主成分得点。  
\*\*\*:1%, \*\*:5%, \*:10%.

出所:STATA18を用いて野田ゼミ作成

# 有効感

## 単独では

## 有意ではなかった

		交差項無のモデル	交差項有のモデル
外形的要因	民間施設開催	0.289 *** (0.106)	0.305 *** (0.084)
行政に対する認識	業績	0.043 (0.102)	0.038 (0.084)
	信頼	0.043 (0.097)	0.008 (0.081)
	有効感	0.014 (0.091)	-0.015 (0.083)
属性	アーマ関係有	0.174 ** (0.074)	0.219 ** (0.09)
	女性	-0.341 * (0.2)	-0.124 * (0.072)
	年代	-0.027 (0.067)	-0.040 (0.081)
	給与所得	-0.203 (0.108)	-0.078 (0.07)
	有効感	0.014 (0.091)	-0.015 (0.083)
	参加経験	1.274 *** (0.339)	0.248 *** (0.066)
参加の環境	知人と一緒	0.206 *** (0.077)	0.263 *** (0.094)
	アクセスの良さ	0.005 (0.087)	0.016 (0.1)
	心理的入口動機	0.133 (0.102)	0.183 * (0.107)
	心理的容易さ	-0.232 ** (0.096)	-0.268 ** (0.115)
	獲得勘定	-0.076 (0.099)	-0.109 (0.114)
	民間施設開催×有効感		0.236 ** (0.091)
	定数	1.380 (0.862)	0.098 (0.07)
	決定係数	0.274	0.306

(注)標本数172、OLS、ロバスト標準誤差。交差項有のモデルは変数を標準化。  
心理的入口動機、心理的容易さ、獲得勘定は主成分分析の主成分得点。  
\*\*\*:1%, \*\*:5%, \*:10%.

出所：STATA18を用いて野田ゼミ作成

# 交差項

## 民間施設

### ×

## 有効感

# ポジティブ

		交差項無のモデル	交差項有のモデル
外形的要因	民間施設開催	0.289 *** (0.106)	0.305 *** (0.084)
行政に対する認識	業績	0.043 (0.102)	0.038 (0.084)
	信頼	0.043 (0.097)	0.008 (0.081)
	有効感	0.014 (0.091)	-0.015 (0.083)
	テーマ関係有	0.174 ** (0.074)	0.219 ** (0.09)
属性	女性	-0.341 * (0.2)	-0.124 * (0.072)
	年代	-0.027 (0.067)	-0.040 (0.081)
	給与所得	-0.203 (0.198)	-0.078 (0.07)
	京都市民	-0.316	-0.103
民間施設開催×有効感			0.236 ** (0.091)
参加の環境	参加経験	1.274 *** (0.339)	0.248 *** (0.066)
	知人と一緒	0.206 *** (0.077)	0.263 *** (0.094)
	アクセスの良さ	0.005 (0.087)	0.016 (0.1)
	心理的入口動機	0.133 (0.102)	0.183 * (0.107)
	心理的容易さ	-0.232 ** (0.096)	-0.268 ** (0.115)
	獲得勘定	-0.076 (0.099)	-0.109 (0.114)
	民間施設開催×有効感		0.236 ** (0.091)
定数		1.380 (0.862)	0.098 (0.07)
決定係数		0.274	0.306

(注) 標本数172、OLS、ロバスト標準誤差。交差項有のモデルは変数を標準化。  
心理的入口動機、心理的容易さ、獲得勘定は主成分分析の主成分得点。  
\*\*\*:1%, \*\*:5%, \*:10%.

出所：STATA18を用いて野田ゼミ作成



有効感の高い人ほど**民間施設開催**の  
場合に 参加意向が高まる





# その他

テーマとの関係性  
参加経験

知人とともに参加

ポジティブ

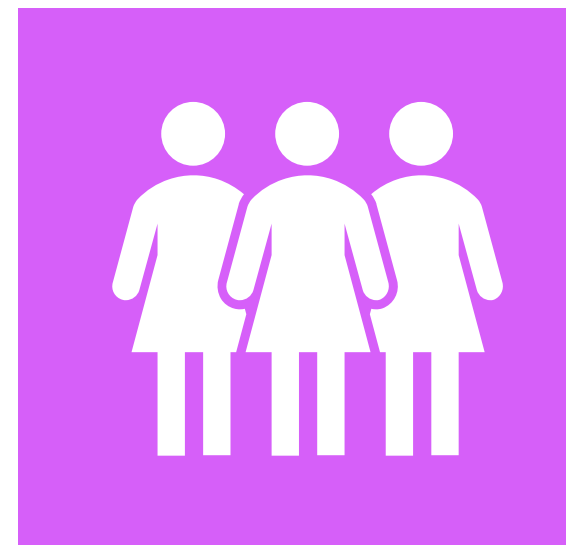
		交差項無のモデル	交差項有のモデル
外形的要因	民間施設開催	0.289 *** (0.106)	0.305 *** (0.084)
行政に対する認識	業績	0.043 (0.102)	0.038 (0.084)
	信頼	0.043 (0.097)	0.008 (0.081)
	有効感	0.014 (0.091)	-0.015 (0.083)
	テーマ関係有	0.174 ** (0.074)	0.219 ** (0.09)
属性	女性	-0.341 * (0.2)	-0.124 * (0.072)

参加経験	1.274 *** (0.339)	0.248 *** (0.066)
知人と一緒	0.206 ***	0.263 ***

	イデオロギー	0.001 (0.076)	0.036 (0.078)
参加の環境	参加経験	1.274 *** (0.339)	0.248 *** (0.066)
	知人と一緒	0.206 *** (0.077)	0.263 *** (0.094)
	アクセスの良さ	0.005 (0.087)	0.016 (0.1)
	心理的入口動機	0.133 (0.102)	0.183 * (0.107)
	心理的容易さ	-0.232 ** (0.096)	-0.268 ** (0.115)
	獲得勘定	-0.076 (0.099)	-0.109 (0.114)
	民間施設開催×有効感		0.236 ** (0.091)
	定数	1.380 (0.862)	0.098 (0.07)
	決定係数	0.274	0.306

(注)標本数172、OLS、ロバスト標準誤差。交差項有のモデルは変数を標準化。  
心理的入口動機、心理的容易さ、獲得勘定は主成分分析の主成分得点。  
\*\*\*:1%, \*\*:5%, \*:10%.

出所：STATA18を用いて野田ゼミ作成



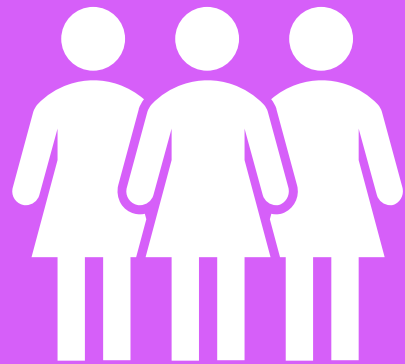
# テーマとの関係性



# テーマとの関係性



# 参加経験



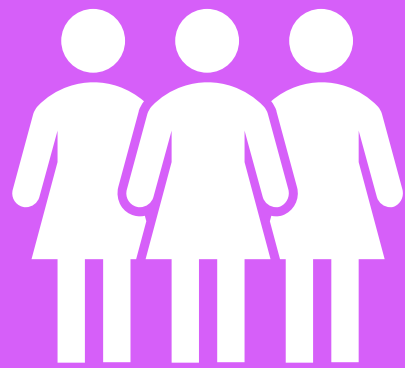
テーマとの関係性



参加経験



知人と共に  
に参加



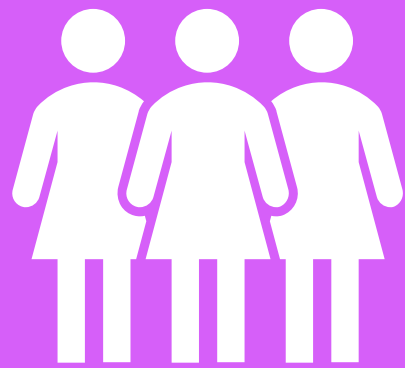
テーマとの関係性



参加経験



知人と共に  
に参加



民間施設  
×  
有効感

民間施設での開催





民間施設で開催するという会議の設計



すなわち **外形的デザイン** が  
市民参加において **有効** である

04

Fourth Step

# 回帰分析 (STATA18)



05

Fifth Step

# 模擬會議



# 模擬会議



## 烏丸御池駅



## 北大路駅

### の街頭で募集

同志社大学野田ゼミ主催！

## インバウンドに関する 意見交換会

—日常生活で感じたインバウンドの課題や二重価格の是非について—

- ・9月10日(水) 上京区役所 18:00～20:00
- ・9月11日(木) 知るカフェ 18:00～20:00
- ・9月14日(日) サイゼリヤ 13:00～15:00
- ・9月14日(日) 上京区役所 16:00～18:00

同志社大学前店

今出川駅前店

「京都から発信する政策研究交流大会」への出場に向けて模擬会議を開催します。市民の皆様にご参加いただき、会議の雰囲気や進行についてご意見を伺うことで今後の研究に活かしたいと考えております。ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。



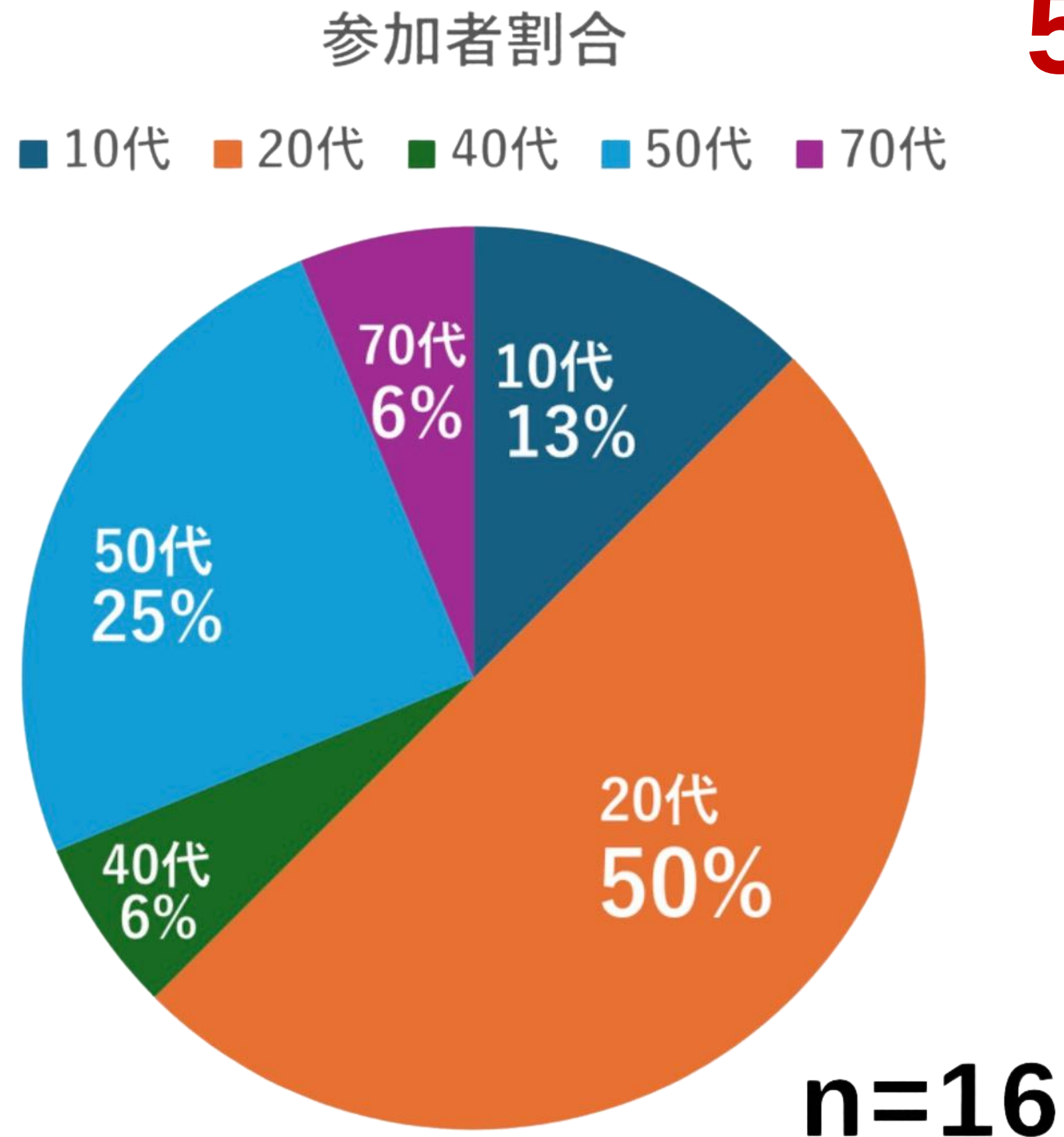
お申し込みはこちらから！  
お電話・メールからでも  
お待ちしております！

☎080-8942-8758

✉ a.noda.zemi@gmail.com  
同志社大学政策学部  
野田ゼミA班



# 5日間にわたり実施 参加者 計 16名



- 10代 2名 (13%)
- 20代 8名 (50%)
- 40代 1名 (6%)
- 50代 4名 (25%)
- 70代 1名 (6%)

年齢層に偏りがある



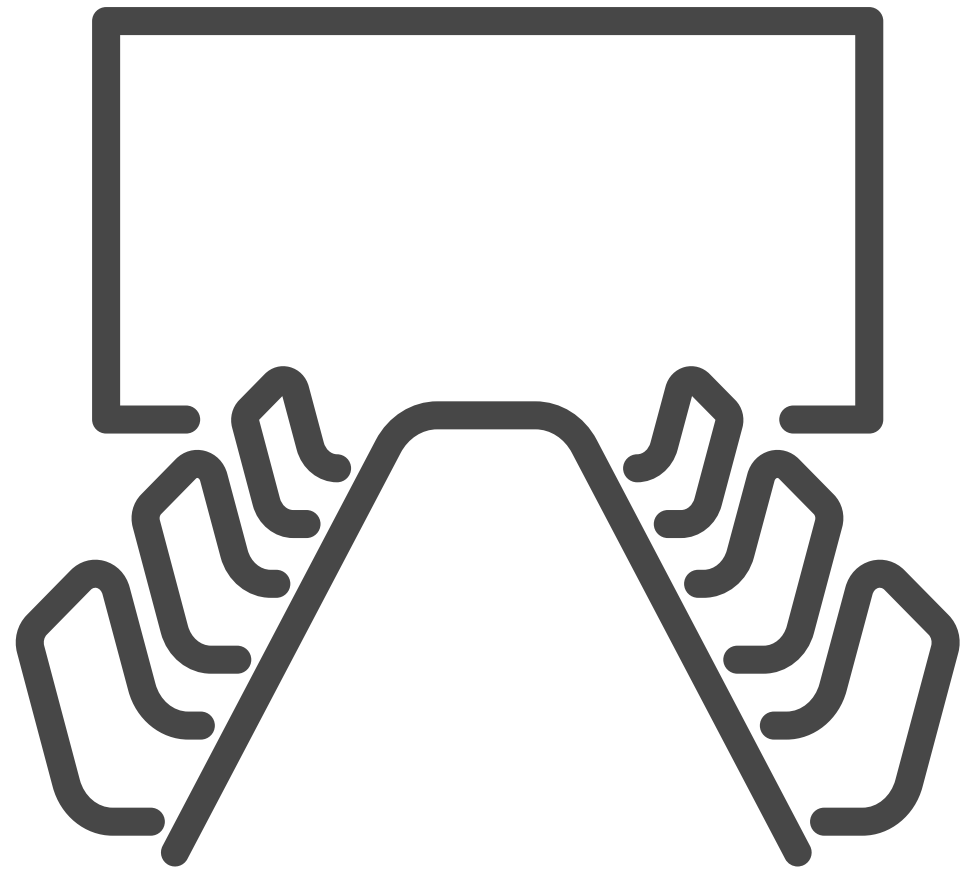
多様な年代が参加したため

概ね全体の傾向を見るうえで利用できる



# 開催場所

公共施設



比較



民間施設



# 開催場所

1日目	公共施設	→	民間施設
2日目	民間施設	→	公共施設
3日目	民間施設	→	公共施設
4日目	公共施設	→	民間施設
5日目	公共施設	→	民間施設

時間経過による

開催場所以外の要素が変わることによって

参加意向 や 発言のしやすさ に

影響しないようにするため

# 模擬会議



## 開催場所

### 民間施設

- ・知るカフェ同志社前店
- ・サイゼリヤ今出川駅前店

### 公共施設

- ・上京区役所
- ・北文化会館

※1回の会議を前半と後半の二部構成にし、場所を入れ替え





公共施設



民間施設





# 会議アフターアンケートの実施

アンケート内容：公共施設と民間施設において  
参加意向と発言のしやすさに関してアンケートを実施

7  
(とても参加したい)  
(とても発言しやすい)

6

5

4

3

2

1

(全く参加したくない)  
(とても発言しにくい)

参加意向

発言のしやすさ

■ 公共施設 ■ 民間施設

\*\*\*:1%. \*\*:5%. \*:10%

出所：STATA18を用いて野田ゼミ作成

1.2\*\*\*

1.6\*\*\*

4.6

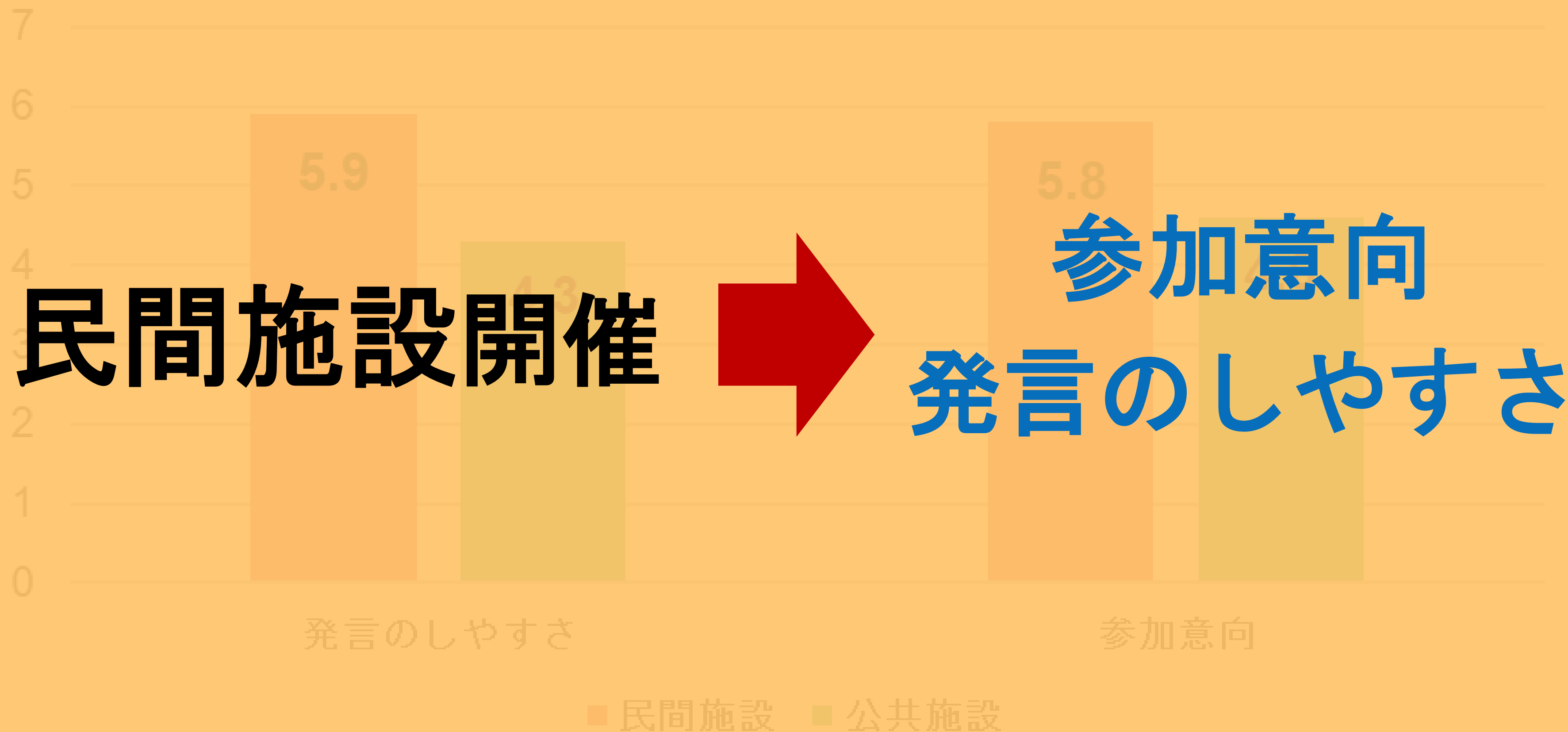
5.8

4.3

5.9



アフターアンケートの平均値の比較(t検定)



# 回帰分析の変数

## 従属変数

民間施設での参加意向・  
民間施設での発言のしやすさ

# 回帰分析の変数

## 独立変数

年齢・女性・有効感・  
知人と一緒

# 従属変数：民間施設開催の場合の参加意向

	係数
年齢	-0.331
女性	0.538
有効感	0.495 **
知人と一緒	-0.229
定数	5.769

(注)標本数16.決定係数0.28.ロバスト標準誤差.

\*\*\*:1%.\*\*:5%.\*:10%

# 従属変数：民間施設開催の場合の発言のしやすさ

	係数
年齢	-0.647 **
女性	1.375 **
有効感	0.581 **
知人と一緒	-0.602 *
定数	8.344

(注)標本数16.決定係数0.52.ロバスト標準誤差.

\*\*\*:1%.\*\*:5%.\*:10%



# 結論

民間施設での開催は  
参加を促進する効果が高い



# 結論

民間施設での開催は  
発言のしやすさが高まる





# 結論

回帰分析によると...

有効感単体では参加意向に  
明確な影響を与えない結果



# 結論

## 外形的デザイン



**有効感が高い市民**の参加を  
向上させることが見込まれる！



# 結論

参加経験 も 参加意向

を促進する





# 結論

民間施設開催を呼び水として参加者が増えると...

その経験がさらに今後の参加を  
生む**好循環**も期待できる



# 結論

本研究では**民間施設**で  
参加可能会議を開催するという

外形的デザインに着目してきた



# 結論

“単なる開催場所”という要因



参加の判断に大きく影響

市民参加が確実に向上する



# 結論

民間施設で開催する  
会議の「外形的デザイン」  
ぜひ検討してみてください

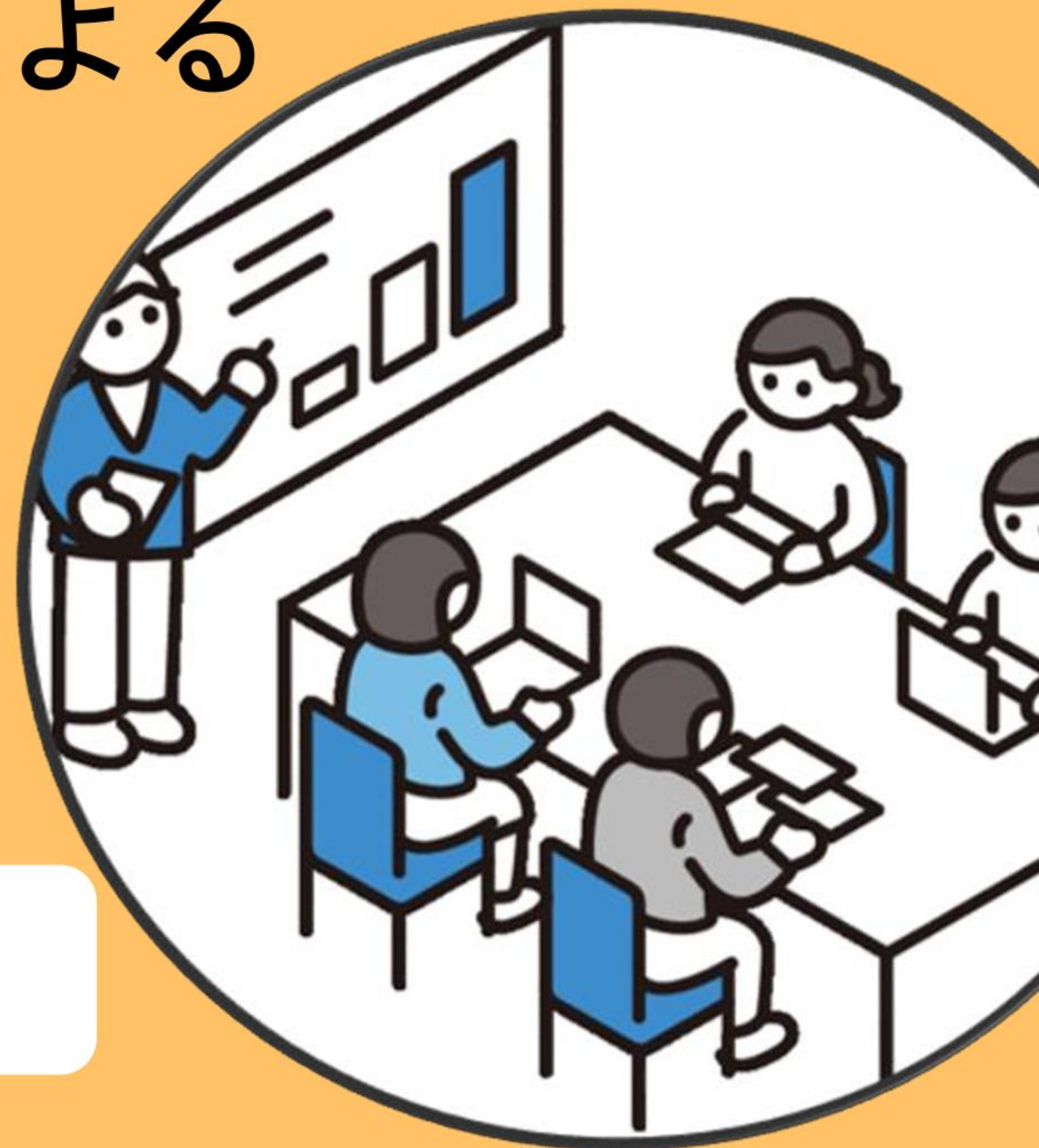




# 会議の 外形的デザイン による 市民参加の促進

—民間施設開催の効果の検証—

同志社大学政策学部野田ゼミA班



# 参考文献

・蒲島郁夫・境家史郎(2020)

『政治参加論』 東京大学出版会

・京都市(2019)

『市政総合アンケート報告書―市民参加（市政、まちづくり活動への参加）について』

・文部科学省(2017)

『男女共同参画のためのワールドカフェ実践手引書(改訂版)』

・佐藤徹(2018)

「無作為抽出方式による市民討議会の参加承諾者の特徴に関する実証分析」『年報行政研究』 53号 p.13

・石上泰州(2005)

「日本における地方選挙と有権者意識」小林良彰編 『21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態1

日本における有権者意識の動態』慶應義塾大学出版会, 第10章を参照

・G. I. Balch,(1974)

"Multiple Indicators in Survey Research: The Concept Sense of Political Efficacy,

"Political Methodology, Vol. 1, No. 2(Spring), pp. 1-43.

・William H Riker and Peter(1968)

C.Ordeshook,"A Theory of the Calculus of Voting," American Political Science Review. Vol.62 No.1 pp.25-42.

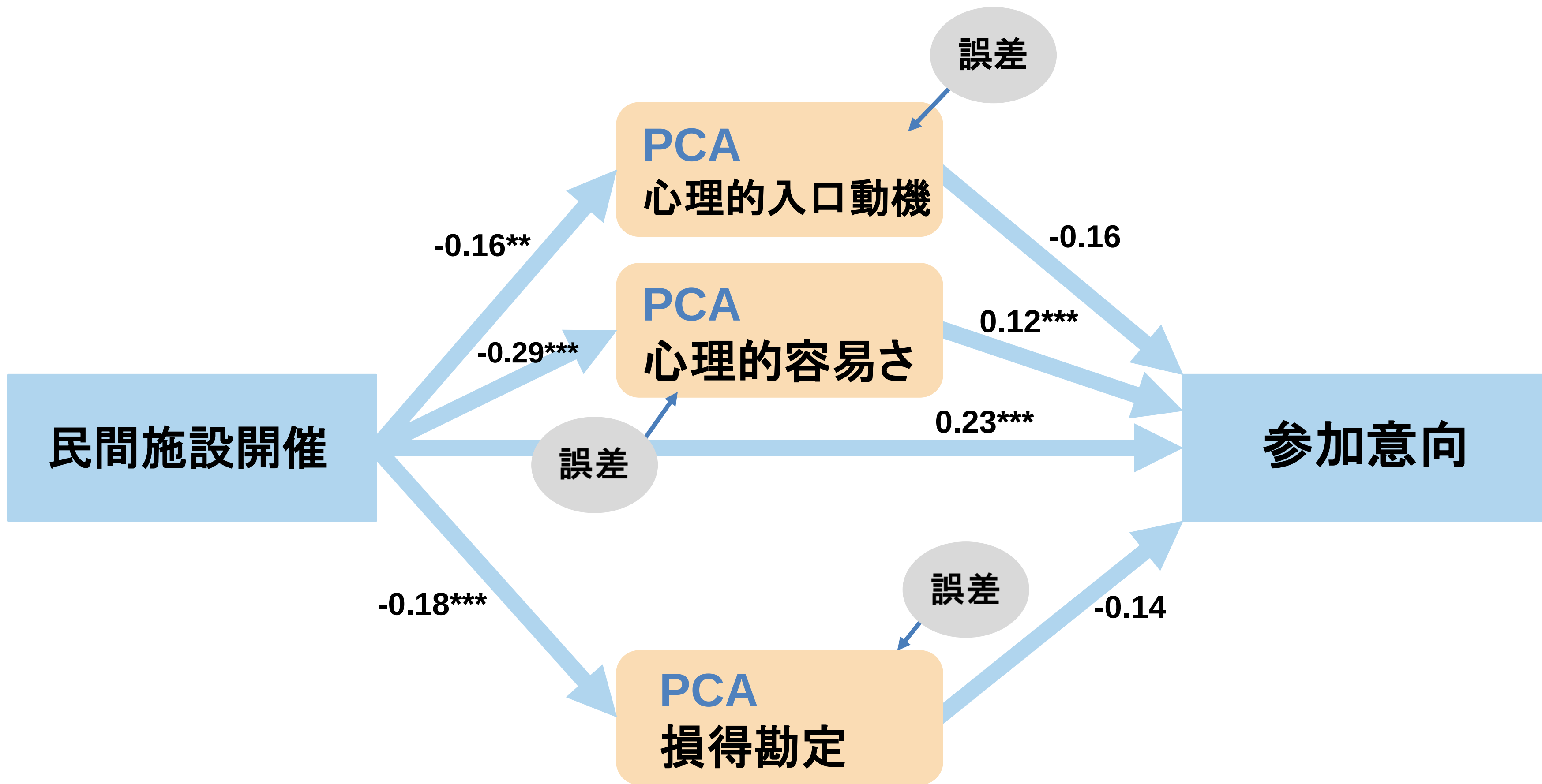
・Sidney Verba, Norman Nie (1975)

Participation in America: Political Democracy and Social Equality. American Journal of Sociology,

Vol. 81, No. 1 pp. 195-197

・Campbell, Con- verse, Miller, and Stokes,(1960)

The American Voter pp. 169-187



# 会議参加の応募

a.noda.zemi@gmail.com

[アカウントを切り替える](#)



共有なし



一緒に会議に参加したい人がいる場合  
氏名を教えてください。

回答を入力

---